

ついでに
レポート
No. 382



日本共産党中央区議団議員 おぐり智恵子の

議員活動報告

事務所：中央区日本橋人形町1-10-8
自宅：Tel/Fax 3249-1762

発行・日本共産党中央区議団議員団 Tel 3546-5563
HPアドレス <http://www.jcpchuo-kugidan.jp/>

プライバシーの侵害・情報漏えいの危険 問われる「マイナンバー制度」

マイナンバー詐欺にご注意

マイナンバー（社会保障・税番号）法が10月5日施行され、個人番号を知らせる通知カードの郵送が始まっています。

マイナンバーが通知されることに関連して、「口座番号を教えてくださいほしい」「マイナンバー制度について説明に伺いたい」などといった不審な電話がかかってくるなどの事例が全国的に発生。区内でも同様な電話がかかっています。ご注意ください。

また、マイナンバーに絡み、厚労省室長補佐の収賄容疑で逮



「戦争法を廃止する国会議員を多数にして、国民連合政府をつくろう」「来年夏には山添拓弁護士を参議院に送り出そう」と街頭から訴えました＝10月7日 人形町

捕される事件が起きています。導入費用だけで3000億円、ランニングコストに年300億円かかるという巨大な金くい虫、マイナンバー制度が賄賂にまみれた利権の温床であることを浮き彫りにしました。

個人情報を一括化

マイナンバー制度とは、日本に住む一人一人に番号を割り振り、国が情報管理し、税や社会保障の手続きなどで使用する仕組みです。現在は、年金や税金、住民票などの個人情報は公的機関ごとにそれぞれ管理されていますが、マイナンバーで各情報を一本に結びつけることが可能になります。

政府はマイナンバー制度で、社会保障の手続きが簡略化できるなどとしています。国にとっては国民の所得や社会保障給付の状況を効率よく把握できるシステムです。その反面、国民には税の徴収強化や社会保

障給付削減のために利用されることになり、個人情報の固まりであるマイナンバーが外部に漏れ出し悪用される危険性とプライバシー侵害の危険性まで負わされることとなります。

マイナンバー凍結・中止を

区議会第3回定例会の最終日の10月16日に、マイナンバー制度に関する新しい条例の制定と、事務手数料条例の改正などの議案の採決が行われました。

日本共産党中央区議団は、マイナンバー制度の凍結を国に求めるよう主張し、関連する条例案、カード再発行に手数料をかける議案などに反対しました。

(注) 中央区では
▶通知カード（無料）が、世帯主あてに家族全員分まとめて、10～11月中に郵送されます。
▶個人番号カード（顔写真付き）は希望者のみ発行（初回無料）
■再交付は来年2016年4月から
▶通知カード 500円
▶個人番号カード800円で有料発行となります。

2016年予算への要望書提出

日本共産党地区委員会と党区議団は、9月25日、「2016年度予算編成に関する要望書」を矢田美英中央区長に提出しました。

517項目の要望

「要望書」は、区民のみなさんから寄せられている要望や、毎年行なっている党区議団の「区民アンケート」の結果などをまとめ、今年は517項目の要望になりました。尾坪地区委員長の後、私が主な内容について説明。各議員からも、地元の要求などを具体的に示して、予算化を要望しました。

トルナーレの駐輪場

私は、大型商業施設など人が集まる場所に、きちんと駐輪場を整備するよう求め、浜町のトルナーレに買い物に来て、区道部分に停めた自転車などが、放置自転車として撤去されてしまった事例を示して改善を求めました。

吉田副区長は、「昭和通りに駐輪場を整備して、銀座や日本橋の昭和通りから北の地域には自転車を入れず、歩いて買い物や観光を楽しんでもらう方法を考えている」「トルナーレ付近の状況は調査する」と話しました。



写真上：要望書を区長に手渡す私
写真下：申し入れする区議団



11月の法律相談会

11月17日(火) 3時～
事前にお電話ください
小栗03(3249)1762

要望書の全文は、日本共産党区議団HPに掲載中→<http://www.jcpchuo-kugidan.jp/>

新生児に木のおもちゃを贈呈する「ウッド・スタート宣言」を

「ウッドスタート・木育」ということばをご存知ですか。木のおもちゃは、木目を触ったときの、ぬくもり、音、匂い、色、重さの違いなど、子どもたちの五感に刺激を与え、おとなには癒やしをもたらします。「ウッドスタート・木育」とは、感性豊かな乳幼児期からおもちゃを通じて木と触れ合い、子どもをはじめとする全ての人たちが、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らしを送ることができるとして展開するときに言う

か。木のおもちゃは、木目を触ったときの、ぬくもり、音、匂い、色、重さの違いなど、子どもたちの五感に刺激を与え、おとなには癒やしをもたらします。「ウッドスタート・木育」とは、感性豊かな乳幼児期からおもちゃを通じて木と触れ合い、子どもをはじめとする全ての人たちが、木の温もりを感じながら、楽しく豊かに暮らしを送ることができるとして展開するときに言う

のが「ウッドスタート」宣言です。区議会第3回定例会で、日本共産党区議団を代表して一般質問を行なった志村たかよし議員は、中央区も「ウッドスタート宣言」を行ない、赤ちゃんの誕生祝いとして木のおもちゃを贈呈する施策を提案しました。

「中央区の森」がある檜原村は、2014年12月に「ウッドスタート」宣言を行い、檜原村で生まれた赤ちゃんに、ヤマメやオオサンショウウオなどの檜原村の清流秋川に暮らす生き物たちをモチーフにした「清流のモバイル」と積み木のセットをプレゼントしています。

中央区でも、檜原村の協力を得て「中央区の森」の木や檜原村の木で作ったおもちゃを贈呈する施策を実現するよう迫りました。

区長は「検討します」と答弁しました。



檜原村の木のおもちゃ「清流のモバイル」